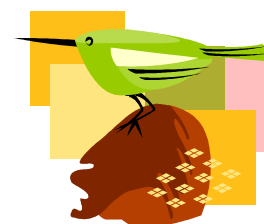


## ほほえみ 第28号



長かった冬も、3月の声を聞いて急速に春らしくなってきているこの頃です。雪は残っていますが、心は春になったらどこか出かけようかと、楽しさがありますね。ほほえみ読者の皆様におかれましても、3月、4月の計画など、立てていらっしゃる方が多いのではないのでしょうか。

### 外来化学療法に補うべきもの

最近では、外来化学療法はごく一般的で、当然のように行われるようになりましたが、逆に外来化学療法で十分対応できていないものもあると思われます。投薬自体は十分に通院で行えるようになった段階でしょうか。

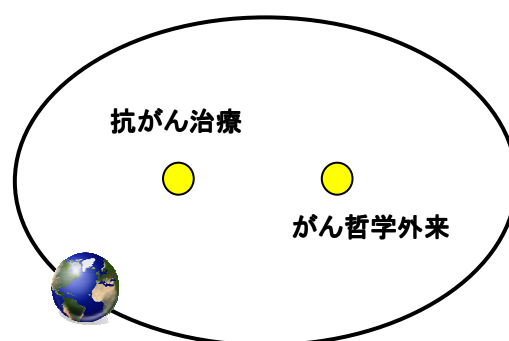
外来化学療法で可能なことは、安全で高度な投薬、副作用管理それによる、社会生活を維持しながらの治療の継続が挙げられます。実際に、入院で化学療法を行っていた時代では、化学療法を導入する際に、最低2か月間は入院といったお話をしていたので、多くの、責任ある職業人の方は休職か、辞職をすぐに考えなければならないような状況でした。かといって、毎日点滴があるという訳でもないのに、何とか通院でという声も多かったのは事実です。

1990年代以降、制吐剤の進歩もあり、また中心静脈ポートなどの、投薬ルートが広く使われるようになったこと、医師、看護師、薬剤師の化学療法に関する専門職種が確立され、その数も増えてきたことから、全国的に外来化学療法が行われています。本邦では政策的にも外来化学療法へのシフトということが、強く推進されていますので、1980年代のような、長期入院して化学療法を行うような場合に、今では医療機関が赤字になるように設定されています。がんを扱う総合病院のほとんどに、外来化学療法の設備が整えられつつあります。

当面、外来化学療法が今のスタイルで行われていく可能性は高いのですが、個人的には、このスタイルを検証すべき時期に来ているのではないかと思います。具体的には、身体面以外のサポートの面、特に心理的、スピリチュアル・ケアと呼ばれる部分です。すなわち、化学療法を行いながら(或は放射線療法や手術後の経過を見ながら)、どのように有意義な人生を送るかという課題が、あまり解決されていないように思います。

がん哲学外来や、メディカル・カフェも、そういった意味では非常に重要な役割を担っていると思いますが、もっと日常診療に近いスタンスで、同じような問題を見つめる場がなければならないと思います。そのために、何が必要か……。いろいろな考え方があるとは思いますが、がん哲学外来的な発想を、外来化学療法に導入すれば良いのではないかと考えます。抗がん治療とがん哲学外来を二つの中心にした楕円の発想です。この考え方のオリジナルは、内村鑑三の「楕円形の話」というものを下敷きにしています。

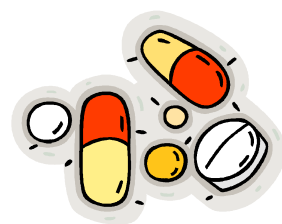
最終的に、どこを変えようかという点ですが、暫くアイデアを温めていました。先日、がん哲学外来の事務局長でもある、建築家の前川信さんと、意見交換を行って、診察室というもの、待合室というものを、変えてみようという結論になりました。マギーズ・センターのミニ版ということで、プチ・マギーという名前をつけたプロジェクトです。現在、プロジェクトが進行中で、当科に、春先にはお目見えするのではないかと思います。乞う、ご期待といったところです。



## マルチキナーゼ阻害剤

通常、分子標的薬は特定の分子標的に作用するように設計されていますが、薬剤によっては、一対一の特異性が低く、多数の標的に作用する薬剤も開発されてきています。ソラフェニブやスニチニブなどがそうですが、現在、承認申請中の薬剤として、レゴラフェニブという薬剤も、複数の標的を持つマルチキナーゼ阻害剤と言われています。

レゴラフェニブは、大腸癌とGIST(消化管間葉系腫瘍)に申請を出しており、大腸癌に関してはそろそろ承認の情報が出てくるのではないかと言われてはいますが、承認審査は一般に遅れることが多く、現実的には使えるようになるまで、もう少し時間がかかるのではないかと思います。

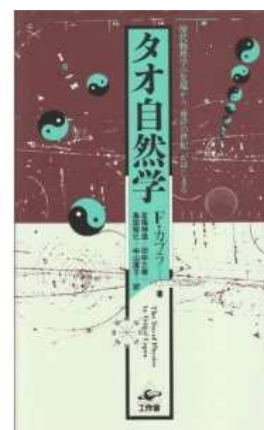


## タオ自然学

タオ自然学という言葉は見慣れないので、一見、何の本かわかりませんね。タオ = 道 と書くと、少しわかって来ます。老子の無為自然の道のことです。この本は、東洋哲学と物理学、その中でも素粒子論を比較して、根底にある考え方の共通性を言っている本なのです。著者のフィリチョフ・カプラは物理学者なのですが、インド哲学や、仏教、老荘思想などを俯瞰して、半分は東洋哲学が占め、残りはハイゼンベルグの不確定性理論や素粒子論など解説しています。ものすごい一冊の中でギャップがあるのですが、欧米では非常に売れた本らしいです。

個人的には、素粒子論の考え方が、平易に書かれていて大変参考になりました。老荘思想はあまり読みませんが、易経は読むことがあり、乾坤、陰陽の変化を背景にした考え方には慣れているので(占いはしません)、面白く読めました。

この本の読み方としては、東洋思想の方に進んでも良いし、リサ・ランドールの「ワープする宇宙」のように、最新の物理学の方に読み進める読み方もあると思います。ちょっと、変わった読書をしたい方にお勧めできます。



## 伊藤祝栄医師が異動となります

先日、東北大学大学院・医学研究科の合否発表があり、伊藤祝栄医師は無事、大学院に進学の運びとなりました。一年余りの間、皆様のご協力の下、研鑽を積んで参りましたが、進学後は臨床の修練のみならず、基礎研究にも携わることになろうかと思います。

伊藤医師が担当させていただいていた方に関しては、4月以降は、加藤、福田が引き継いで担当させていただくこととなりますので、引き続き、ご協力・ご理解を、宜しくお願い申し上げます。

## MEMO

### 3月のがん化学療法科の予定

3月3日 ひなまつり  
3月8日 柴田教授外来  
3月15日 新渡戸稲造記念メディカル・カフェ(予定)  
3月22日 柴田教授外来

